

上越交響楽団

室内楽演奏会
新潟公演

平成19年 **2月11**日(日) 15:00

新潟市民芸術文化会館
りゅーとぴあ スタジオ A

Program

◆ ホルン五重奏

モーツァルト：ホルン五重奏 変ホ長調 K. 407 (386C)
W.A.Mozart: Quintett Es-dur, KV.407 (386C)
für Horn, Violine, zwei Violon und Violoncello

- I. Allegro
- II. Andante
- III. Allegro

モーツァルトの冗談相手で親しい友人であったホルン奏者ロイトゲーブのために1782年に作曲されたものであるが、有名な4曲のホルン協奏曲に先立って作曲され、ホルンの演奏技術を試す意味もあつたと推測される。

編成はホルン1、バイオリン1、ビオラ2、チェロ1と、弦楽が通常の弦楽四重奏の編成と異なりビオラが2本となっているのが特徴であり、これによって内声の充実とともにバイオリンと独奏ホルンの対話が鮮明になるという効果をあげている。室内楽というよりも協奏曲的な性格を持った楽曲になっている。

■ ソプラノ独唱

岸田杢子 作詞 / 中田喜直 作曲：

歌曲集《日本のおもちゃうた》

- I. あねさまにんぎょう
- II. ヨーヨー
- III. お手玉とおはじき
- IV. 海ほおずきと少年
- V. 竹とんぼ
- VI. おまつりはどこ
- VII. 紙風船

この歌曲集は大蔵担子氏の委嘱により、1966年10月から11月にかけて書かれ、この年の11月、大蔵のリサイタルで初演されている。この作品は、1947年に作曲された『六つの子供の歌』と同じように子供の世界を題材にしているが、前作より20年近くの時を隔てているだけに、手法も極めて多彩である。

詩は総て岸田杢子によるものだが、おとなの眼で見た子供の世界がある。第4曲の「海ほおずきと少年」は特に傑作で、多感な少年の想いが胸中に忍び入ってくるようだ。第5曲の「竹とんぼ」なども、男の子の夢想と憧憬が充ちている。

..... 休憩

● ピアノ五重奏

シューマン：ピアノ五重奏曲 変ホ長調 作品44

R.Schumann: Klavierquintett Es-dur op.44,

für Klavier, zwei Violinen, Viola und Violoncello

I. Allegro brillante

II. In modo d'una marcia. Un poco largamente

III. Scherzo: Molto vivace

IV. Allegro ma non troppo

1840年シューマンが30歳の秋、新婚直後の幸福な最中にピアノニストであった愛妻クララのために作曲された、彼の唯一の五重奏曲である。曲は名ピアノニストたる彼女の妙技を十分に発揮しうるような華麗なピアノ部を持ち、全楽章にわたってシューマン特有のロマンチックな作風に満ちた丹念な作品で、彼の室内楽の傑作として名高い。初演のピアノはクララが演奏している。この結婚に続く数年間は、シューマンの美しい詩想が豊富に送出して大作が矢継ぎ早に発表された時期だった。

編成は多くのピアノ五重奏曲と同じように、ピアノと弦楽四重奏(バイオリン2、ビオラ、チェロ)のために書かれている。

～ 出演者 ～

ソプラノ：横田聡子（特別ゲスト）

ピアノ：稲田由佳

ホルン：須田孝義

バイオリン：奈良秀樹 橋本土郎

ビオラ：渡辺みほ 横田裕祐

チェロ：上野敦子

◆ 上越交響楽団 ◆

上越市を中心に音楽を愛する仲間が集い 1972 年に結成されたアマチュア団体。結成から毎年開催している定期演奏会は今年で 60 回を数える。また 1989 年から県民文化祭として各地で開催された演奏会にも参加している。

アマチュア団体が長期間活動を継続するには苦労もあるが、それぞれの団員が仕事や勉学をやり繰りして、質と達成度の高い音楽を表現すべく様々な楽曲にチャレンジしている。レパートリーは古典のモーツァルトやベートーベンから、難易度の高いマーラー、ブルックナーやストラビンスキーまで、編成は今回のような室内楽から大編成の楽曲まで多岐にわたる。

近年の活動範囲は県内はもとより国内にとどまらず、上越市の国際事業の一環として 2000 年から韓国浦項(ポハン)市との音楽交流を進めており、浦項市立交響楽団の来日による合同演奏会や 2002 年の本団の浦項市訪問演奏会で好評を博す。2002 年からは吉井俊哉氏を常任指揮者として迎え、ますます充実した活動を展開している。

● 特別ゲスト 横田 聡子 ●

上越市出身。新潟大学教育学部特別教科(音楽)教員養成課程声楽専攻卒業。上越教育大学大学院芸術系音楽コース修了。

第7回 KOBE 国際学生音楽コンクール入選。第5回“万里の長城杯”国際音楽コンクール第5位、福光 IOX-AROSA 声楽サマーセミナー2003 奨励賞、第41回新潟県音楽コンクール最優秀賞を受賞。オペラでは、《ポッペアの戴冠》オッターヴィア、《奴奈川姫》八坂刀売姫・鳥の精、《ドン・ジョヴァンニ》ドンナ・アンナ、《魔笛》パミーナなどで出演。2007年3月には上越市民オペラ公演《愛の妙薬》アディーナ役、新潟オペラスタジオ・楽路歷程合同公演《デイドーとエネアス》デイドー役で出演予定。ソリストとしては、モーツァルト《レクイエム》、《戴冠ミサ》、ヴィラ・ロボス《ブラジル風パッサム第5番》などのソプラノ・ソロを務める。

高橋利恵、絹川文仁、寺川悦男、U.ガルディーニ、池田操、鈴木規子の各氏に師事。新潟産業大学附属高等学校非常勤講師のほか、後進の指導にも当たっている。

新潟オペラスタジオ、上越市民オペラ各会員。